

教育学部

I	教育の水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-3

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育内容・方法等の検討とその改善・向上に資することを目的とする教務委員会や、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施して教育内容・方法の改善やモチベーション向上を図る自己点検・評価委員会を設置しており、教育内容、教育方法の改善に努めている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 国際通用性のある教育課程の編成に向けた取組として、複数名の外国人教員を採用し、英語による授業科目「Effective learning strategies」を3年次に設置している。また、海外の協定校との国際教育プログラムを毎年実施している。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年9月に卒業生を対象に授業や学習の満足度について調査した「京都大学教育学部卒業生調査」の結果では、肯定的な回答の割合は、「卒業論文作成」については67.4%、「ゼミでの指導・議論」については63.6%、「学部専門科目」については78.6%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における卒業生のうち就職者の割合は平均56.8%、進学者の割合は平均33.9%となっている。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度から特色入試を導入し、教育学部の求める「人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生」の選抜を強化している。
- 外国人教員を平成 26 年度に 1 名、平成 27 年度に 2 名採用し、平成 27 年度までに延べ 8 科目の英語による授業を開講し、英語運用スキルの習得だけでなく英語で思考する力量を高める学習機会を提供している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間における卒業生のうち就職者の割合は平均 56.8%、進学者の割合は平均 33.9%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

